

【通所介護】

支援する上で工夫・努力していることは何ですか。

1	<ul style="list-style-type: none"> ・根気よく、必要に応じて書いて伝える。 ・ある程度本人の行動の自由さをもってもらい、必要により制限(安全確保のため出入口のロックやマンツーマン介助)。
2	“ボランティア”として他の高齢利用者へのお茶だし等できることをしてもらい、高齢者との差別化を意識している。
7	本人の趣味に合わせて音楽を流す機会を増やしたり、年の近い職員が声かけをして、職員との会話を楽しんでいただけるよう工夫している。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の困惑、混乱を聞ける・聞く姿勢をもつようになっている。 ・時間外、利用延長など、なるべく生活に沿った要望に応えられるようになっている。
9	年齢の差を感じさせないように他の利用者と同じように接する。
10	年齢のみにとらわれず、利用者が一番合った関わりや場所を作っていくことが大切と考えている。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・かかわりを多く持つ。 ・規則正しく生活できる。 ・できることを増やしていけるよう興味あるものを知り、すすめ、根気よく継続する。
13	部屋が広く空間が多いので、認知症の初期の方はかえって落ち着けない人がいるので、空間を狭くしたり、落ち着ける場所を見つけるなど工夫をしている。
16	静かな場所を提供し、穏やかに過ごせる環境作り、頭から認知症とまとめてしまわず、1人1人をよく観察し、対応の仕方を統一する。ただ単に声かけ・傾聴などといったマニュアル的なことはせず、その方の言動を少し距離を置いて観察し、メモを取る。そしてケアプランにあげ、少しでも苦痛なくデイサービスで生活できるよう支援する。
17	<ul style="list-style-type: none"> ・家族との連絡を密にする。 ・職員が常に見守りする。
18	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症についての外部研修に参加し、認知症への知識や支援について学習。 ・認知症における疾患や支援に対する専門医・主治医からアドバイスをいただく。
19	家族や本人のニーズに対応できるよう、また認知症の方に対し問題としている点を行政や家族と話し合い、少しでも本人にとってよい方向へ進めていく工夫をしていく。
20	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が無理をしないこと。 ・周囲との調和、関係性を保てるように注意。 ・本人の継続した取り組みの支援。
23	本人の意思(仕事がしたい)を受けとめ、本人のできることを探り、サービスにつなげている。
24	特別なことは行っていない。
25	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄の件は朝の迎えのとき、家人に必ず状態を聞いてくる。 ・常に見守りを行い、外出は避ける(発作がおこった場合はマニュアルに沿って対応する)。
26	これまでやってきたことや現在できることが今後も持続するように、サービス内容に組み入れていく(軽作業や簡単な手伝いなど)。
27	<ul style="list-style-type: none"> ・本人がしたいであろうと思うことにつきあっている(決まった行動パターン、生活歴で実施していたこと等)。 ・家族の希望に沿えるよう、だんだんと話もできなくなり、声も出なくなっているため、歌を歌ったときにテープに録音して渡したりしている。
28	認知症対応型の単位設定とともに、個別対応に努めている。
29	ケアマネジャーと連絡を取り合い、何かがあればすぐに対応できるよう連携している。 口頭でのやりとりは忘れてしまうため、文章で説明・手渡しする、やりとりを簡素化するなどの工夫はしている。
30	単にサービスを提供するだけでなく、「いきがい」をもっていただけるよう支援している。

【通所介護】

支援する上で工夫・努力していることは何ですか。

31	家庭でのやり方を家族から教えていただき、なるべく違和感がないように接するようにしている。送迎時に口頭や文書で家族と連携し、排泄・食事・心身の状態をお互いに把握するようにしている。
32	研修会等に積極的に参加することで、適切な治療とケアを提供する体制作りに努めている。本人や家族を精神的に支える相談体制の充実も図っていききたい。
34	入浴介助、排泄介助、言葉かけなど
36	共通の楽しみを得ていただけるためのアクティビティ内容等の工夫。利用者間のコミュニケーションの橋渡し(仲介)。
38	プライバシーの配慮
39	なるべく関わる時間を多くし、くつろげる雰囲気作りをし、各利用者の興味あることを一緒にする。
41	・本人ができるようなことを探し、一緒にするよう工夫している。 ・本人の好きなことを話の中から探り、試してみる(歌や盆栽)。 ・一対一の対応をできるだけ心がける。
45	今後利用者があるなら、現在の利用者との年齢のギャップを配慮し、孤立しないよう職員が配慮に努めていかなければならないと考えている。
46	本人は家に母親がいると気分不安定で暴言・暴行あり。デイでも暴言・暴行あるので、マンツーマンで対応してきた(廊下や外への散歩)。他利用者の笑い声やテレビの音に反応して怒り出す。H18年9月より薬を処方されて落ち着いてきたが、現在入所していた母親が帰ってくるので心配しているが、なかなかケアマネも方向性が切り出せず。本人は3歳児程度の知能かとも思われ、自分に目が向いていないと不安というより、やきもちやいたような様子となり、現在もマンツーマンでの対応を行なっている。
49	本人の気持ちを大事に考え、支援も本人との会話から方法を見つけていくことを大切にした。
51	若いので、他の利用者とは別メニューを組み、調理の手伝いや後片付けなどスタッフと楽しみながら笑いながらできることを主に考えて行なっている。
53	自分が何をしたいのか聞きだす、見いだす。手芸、買い物、料理とできることは何でもしていただいた、また、していただいている。個別ケアをする。
54	本人の意思を尊重し、訴えをよく聞く。
55	高齢者の方たちばかりなので、座席の配置を工夫している。話しやすく、交流しやすいように考えている。
57	利用者の不安を少しでもやわらげる声かけをしてコミュニケーションをとり、安心できる関わりをもつ。